

【現状】

■がん治療の変化により、外見上の変化が多様化。
■近年の治療環境においては、治療中も患者と社会の接点が増えたことにより、外見変化に伴う社会生活を送る上で大きな支障が生じていることから、患者の悩みが深まっている。

■外見の変化に関する相談ができたがん患者の割合は、小児で約5割、成人では3割に満たない。

■アピランスケアについて、特定の商品を各病院内で紹介することは、公平性・公正性に欠くことから、病院内での周知は難しい一面がある。

【課題】

- 外見変化に際して、患者が求める情報ニーズへの対応
- 外見変化に伴う社会生活を送る上での問題への対応

【考えられる対応策】

- ①他自治体が実施するような一律の助成制度を設立。
- ②アピランスケアに関する情報を集約し、がん患者に必要な情報を集約する仕組みを構築。
- ③患者の漠然とした不安や悩みなど医療以外の広範かつ個別性の高い相談への受入れ体制。

○論点⑤

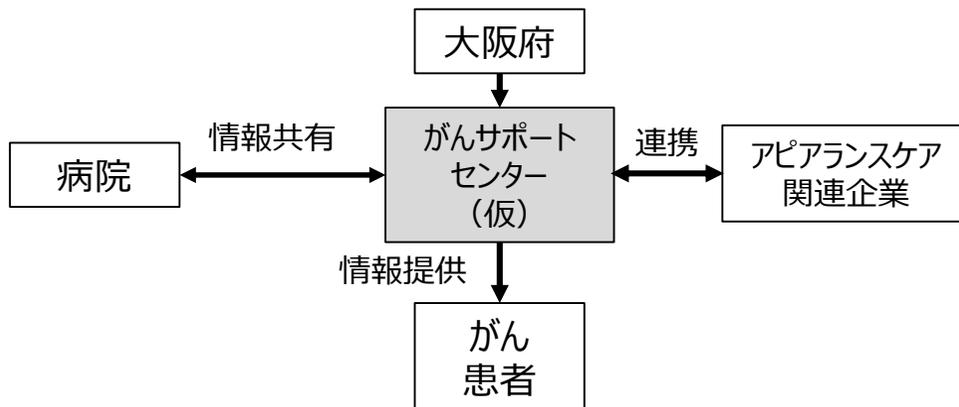
- 助成制度を設立するには、対象経費、対象者、所得などの様々な要件を設定する必要がある、必要とする人が必要な支援を受けることは難しいのではないか。
- 相談先が分からないという声も多く聞く中で、情報の集約を行い、アクセスしやすい仕組みを構築してはどうか。
- 公平性・公正性の観点から、公的機関が特定の商品を紹介することが難しいため、民間主導の運営が望ましいが、可能か。
- 他の支援の方法はないか。

対応策（案）

アピランスケアに関する情報を集約し、必要な情報にアクセスしやすい仕組みを構築

【アピランスケア支援】

アピランスケアについての支援を行うことで、治療後のがん患者が社会復帰や就労・就学を迎えるうえで、助けになると考えられる。



○論点⑥

- がん患者が社会復帰・就労を行うにあたり、どのようなアピランスケアが必要と考えられるか。
- アピランスケア関連企業について、どのような企業や団体と連携をしたら良いか。
- 企業からの幅広い支援を受けるためには、どのような連携を取っていったら良いか。